**藤田　枕流（ふじた・ちんりゅう）**

**１、プロフィール**

俳人。俳誌「草苑」主宰桂信子に師事。俳誌「渋柿」創刊に参加。俳誌「渋柿園」三代目代表。「表現は平明に内容は深く」を信条とする詠風。俳人協会青森県支部長等を歴任。

＜生没＞

1935(昭和10)年８月28日　～　2014(平成26)年12月７日

＜代表作＞

残雪や餅屋は昼で店じまひ

境内に朝の箒目一位の実

父よりも祖父よりも生き新茶濃し

身につかぬ髭を生やして文化の日

熱燗や俳論はもうそこまでに

＜青森との関わり＞

弘前市生まれ。県立高校に勤務。俳人協会青森県支部長、青森県俳句懇話会副会長として県俳壇を牽引した。

**２、作家解説**

昭和10（1935）年、弘前市生まれ、本名は功。弘前大学文理学部卒。三本木高校、弘前工業高校、黒石高校、弘前工業高校などに英語教師として勤務。

昭和49年、俳誌「渋柿」（後に「渋柿園」と改名）の創刊と同時に参加。50年、俳誌「草苑」主宰桂信子に師事。〈一尺をいきなり跳びぬあめんぼう〉を詠む。52年、俳誌「渋柿園」第1回新人賞受賞。57年、俳誌「渋柿園」三代目代表となる。同年、弘前俳句連盟副会長（事務局長）に就任。58年、俳誌「渋柿園」第1回渋柿園賞受賞。〈天保の墓石ざらざら木の芽風〉を詠む。

平成８（1996）年９月15日、句集『雪解風』を草苑俳句会から出版。９年から９年間、社団法人俳人協会青森県支部長を務める。この間「俳枕」を企画発刊。10年からヨークカルチャーセンター俳句講師を務める。13年から17年まで「陸奧新報」１面コラム「日々燦句」を執筆。17年４月23日、句集『古希』を文學の森から出版。18年から社団法人俳人協会青森県支部顧問となる。19年から21年まで３年間弘前文芸協会会長を務める。20年から青森県俳句賞選者となる。同年、陸羯南会理事に就任。22年、第30回弘前俳句賞受賞。23年、社団法人俳人協会カレンダーに〈残雪や餅屋は昼で店じまひ〉が掲載される。同年、青森県俳句懇話会副会長に就任。26年３月10日、句集『八十路坂』を東奥日報社から出版。

平成２年、弘前俳句連盟会長感謝状。11年、青森県高等学校文化連盟会長感謝状。21年、青森県俳句懇話会会長感謝状。感謝状が示す通り、温厚で指導力、実行力に富み、県俳壇を牽引してきた一人でもある。